

事後評価シート

調査研究課題名	高齢者の移動ニーズに対応した旅客運送サービスに関する調査研究
担 当 者	主任研究官 竹内龍介、研究官 金原章夫 研究官 渡邊幹 前主任研究官 岩元崇宏
① 当初目標と目標達成度	<p>本調査研究は、自家用有償旅客運送や許可又は登録を要しない運送の実態及び課題を把握することを目的に、文献調査並びに平成 30 年度に当研究所で実施したアンケート調査に回答した団体に実施した追加アンケート調査及びヒアリング調査を通じ、各団体が実施しているの輸送サービス以外の事業概況、輸送サービスにおける、地域公共交通での役割や位置づけ、輸送サービスを継続していく上での課題等の実態について詳細な調査を行った。</p> <p>その結果、各地域の中で輸送サービスの位置づけ・役割が明確にされていない地区では、地域公共交通網形成計画の策定や地域公共交通会議等を通じて、地域交通内での各移動手段の位置づけを明確にすることの重要性が示された。</p> <p>各類型別の課題をみると、いずれの輸送サービスもドライバーの高齢化・ドライバーの不足が深刻な課題となっているが、市町村運営有償運送（交通空白）は行政による補助や委託が確保でき、収支が成立している限り金銭面で輸送サービスを継続でき、市町村運営有償運送（福祉）は、継続のための方策や手段を持たない状況で継続できるかの課題が存在する。また、NPO による運行が中心である、公共交通空白地有償運送はドライバー確保が輸送サービスの継続に大きな制約になっていると考えられ、福祉有償運送は、輸送サービス以外の事業との共存という実態が明らかとなった。</p> <p>なお、許可又は登録を要しない運送は、ドライバーの高齢化・不足に加え、運行における安全管理が課題とする団体が多く、安全管理への対応及びドライバー確保を考えると、事業継続にあたって有償運送への移行も選択肢として考えられる。</p> <p>本調査研究により、自家用有償旅客運送や許可又は登録を要しない運送の運営の実態や課題等について把握することができた。したがって、当初の目標を達成できたものとする。</p>
② 調査研究内容の妥当性	<p>本調査研究は、輸送サービスを実施する NPO 法人等の団体へ、アンケート調査及びヒアリング調査を行い、自家用有償旅客運送や許可又は登録を要しない運送の運営の実態や課題を把握し、サービスを継続して行う上での課題を検討した。自家用有償旅客運送及び許可又は登録を要しない運送を横並びで比較できる全国的なアンケート調査は少なく、本調査研究の成果は NPO 法人等による高齢者等を対象とした運送サービスの検討を行うにあたって有効な情報を提供し得るものである。</p>
③ 調査研究の仕組みの妥当性	<p>調査研究を進める過程で随時有識者ヒアリングを実施し、有識者からご意見をいただいた。有識者は地域公共交通や福祉輸送に知見を有する方々にご就任いただき、様々な角度からご意見をいただいた。</p>
④ 成果と活用	<p>研究成果を記した報告書について、当研究所のホームページで広く公表することを予定している。</p>
⑤ その他	<p>当研究所が主催する研究発表会において、成果の一部について報告を行った。</p>